

2021年3月期 第3四半期決算説明会資料

(2871)

株式会社ニチレイ



グループコミュニケーション部 | Rグループ

URL : <https://www.nichirei.co.jp/ir>

低温物流の伸長などにより営業利益の通期見込を上方修正

(単位:億円)	第3四半期			第3四半期(累計)			通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/4発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	581	-26	-4%	1,708	-85	-5%	76%	2,260	-88	-4%	2,260	0
水産	210	1	1%	503	-35	-7%	84%	600	-58	-9%	600	0
畜産	229	-11	-5%	641	-32	-5%	75%	850	-33	-4%	860	-10
低温物流	552	24	4%	1,599	44	3%	76%	2,120	55	3%	2,100	20
不動産	11	-1	-6%	36	-2	-5%	76%	47	-3	-5%	47	0
その他	12	-4	-26%	37	-5	-11%	66%	50	-7	-12%	56	-6
調整額	-55	-0	-	-165	-4	-	-	-212	-0	-	-208	-4
売上高合計	1,540	-18	-1%	4,357	-119	-3%	76%	5,715	-134	-2%	5,715	0
加工食品	48	-7	-12%	134	-5	-4%	80%	168	1	0%	168	0
水産	7	2	36%	7	1	19%	333%	5	1	13%	2	3
畜産	5	2	83%	10	3	45%	80%	13	4	44%	13	0
低温物流	44	5	13%	113	17	18%	91%	129	11	9%	125	4
不動産	5	-1	-13%	16	-1	-3%	79%	20	0	1%	20	0
その他	-2	-3	-	-3	0	-	-	-3	-0	-	0	-3
調整額	0	1	-	-3	1	-	-	-7	-1	-	-8	1
営業利益合計	107	-0	-0%	274	17	7%	86%	325	15	5%	320	5
経常利益	109	-1	-1%	279	15	6%	87%	327	9	3%	320	7
親会社株主に帰属する 当期純利益	61	-15	-19%	170	-1	-1%	85%	200	4	2%	200	0
為替レート	2021年3月期 見込	2021年3月期 3Q実績	2020年3月期 3Q実績	注: 為替レートの実績は1月~9月の期中平均で算出								
米ドル/円	107.00	107.60	109.15									
ユーロ/円	122.00	120.91	122.66									
パーツ/円	3.40	3.42	3.49									

(第3四半期累計)

- 売上高は、低温物流は順調に推移したものの、外食向けの販売が振るわずグループ全体では減収。
- 営業利益は、巣ごもり消費に関連した商品・サービスの提供やコストマネジメントの徹底により増益。純利益は、のれんの減損損失を計上したことなどにより減益。

(通期見込)

低温物流が計画以上に推移したことや、水産の改善など第3四半期までの進捗を踏まえ、営業利益を上方修正、当期純利益は前回見込から変更なし。

家庭用の拡販やコスト低減を進め前期並みの利益確保へ

(単位：億円)		第3四半期			第3四半期（累計）				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/4発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	581	-26	-4%	1,708	-85	-5%	76%	2,260	-88	-4%	2,260	0
	家庭用調理品	179	12	7%	523	45	9%	73%	715	67	10%	715	0
	業務用調理品	235	-33	-12%	661	-108	-14%	78%	860	-135	-14%	850	10
	農産加工品	52	1	2%	155	2	1%	77%	202	4	2%	202	0
	海外	85	-1	-1%	260	-4	-1%	72%	353	5	1%	363	-10
	その他	31	-6	-16%	109	-21	-16%	84%	130	-28	-18%	130	0
	営業利益	48	-7	-12%	134	-5	-4%	80%	168	1	0%	168	0

(第3四半期累計)

1. 家庭用調理品は生産ラインを強化した「本格炒め炒飯」や「特から」などの主力商品や、「極上ヒレかつ」が好調に推移し増収。
2. 業務用調理品は厳しい環境が続く減収、引き続き惣菜向けの強化や大手ユーザー向けの商品導入を進める。
3. 海外では、米国のイノバジアン・クイジーン社の販売が引き続き伸長。 ※内訳はP6参照
4. 営業利益は、業務用の回復が遅れ減益となったが、家庭用の販売や海外関係会社の業績は好調を維持し、全体としては計画線上で進捗。

(通期見込)

1. 第4四半期は家庭用の拡販や広告費をはじめとしたコストコントロールなどにより、通期では前期並みの営業利益を見込む。
2. 需要の強い業態へ主力商品や春の新商品の拡販に注力し、売上げ回復につなげる。

TCが引き続き順調に推移し通期見込を上方修正

(単位：億円)		第3四半期			第3四半期（累計）				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/4発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
低温 物流	売上高計	552	24	4%	1,599	44	3%	76%	2,120	55	3%	2,100	20
	国内小計	453	24	6%	1,317	65	5%	76%	1,744	90	5%	1,734	10
	物流ネットワーク	269	11	4%	782	26	3%	76%	1,042	33	3%	1,032	10
	地域保管	183	13	7%	534	39	8%	76%	702	57	9%	702	0
	海外	94	-1	-1%	269	-13	-5%	79%	349	-27	-7%	339	10
	その他・共通	5	1	25%	13	-8	-37%	50%	27	-9	-24%	27	0
	営業利益計	44	5	13%	113	17	18%	91%	129	11	9%	125	4
	国内小計	41	4	10%	107	16	18%	89%	123	14	13%	121	2
	物流ネットワーク	16	3	22%	43	10	29%	84%	54	12	29%	52	2
	地域保管	25	1	3%	63	6	11%	92%	69	2	3%	69	0
海外	5	1	32%	10	1	15%	116%	11	-1	-11%	9	2	
その他・共通	-1	0	-	-4	-0	-	-	-5	-2	-	-5	0	

注：物流ネットワークの一部の
拠点を地域保管へ移管
移管による影響額（売上高：億円）

	21/3
物流ネットワーク	-60
地域保管	+60

(第3四半期累計)

- 国内はTC（通過型センター）の取扱い拡大が継続し増収。営業利益は増収効果や業務効率化に加え、コストコントロールの徹底が寄与し増益。
- 海外は、欧州において外食向け運送の取扱いは減少したが、量販店向けの物量増加などでカバーし、営業利益は前期並みを確保。

(通期見込)

第4四半期は、庫内業務効率化に向けた機器の導入や、新設センター（建替え）稼働に伴う一時費用などにより減益を見込む。TCは引き続き好調に推移し、貨物の荷動きも回復基調にあることから、通期の売上高・営業利益を上方修正。

通期の営業利益は、水産を上方修正、畜産は計画通り進捗

(単位：億円)		第3四半期			第3四半期（累計）				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/4発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	210	1	1%	503	-35	-7%	84%	600	-58	-9%	600	0
	営業利益	7	2	36%	7	1	19%	333%	5	1	13%	2	3
畜産	売上高	229	-11	-5%	641	-32	-5%	75%	850	-33	-4%	860	-10
	営業利益	5	2	83%	10	3	45%	80%	13	4	44%	13	0

1. (水産)

- ① 外食向けや海外販売が低迷し減収となったが、内食向けに「たこ」や「魚卵類」の販売が伸長したことや、コスト削減効果もあり増益。
- ② 第3四半期までの進捗を踏まえ、営業利益の通期見込を上方修正。
引き続き内食向けの販売強化やコストマネジメントの徹底に努める。

2. (畜産)

- ① 輸入冷凍品の販売が振るわず減収となったが、内食・中食需要を着実に取り込み営業利益は計画通り進捗。
- ② 引き続き精肉売り場向けや加工品の販売に注力するとともに、P C *の稼働向上により通期で増益を見込む。

* P C (プロセスセンター) : 食品スーパー向けに、生鮮食肉の加工・包装・出荷の流通プロセスを一括管理しており、国内2拠点で運営。

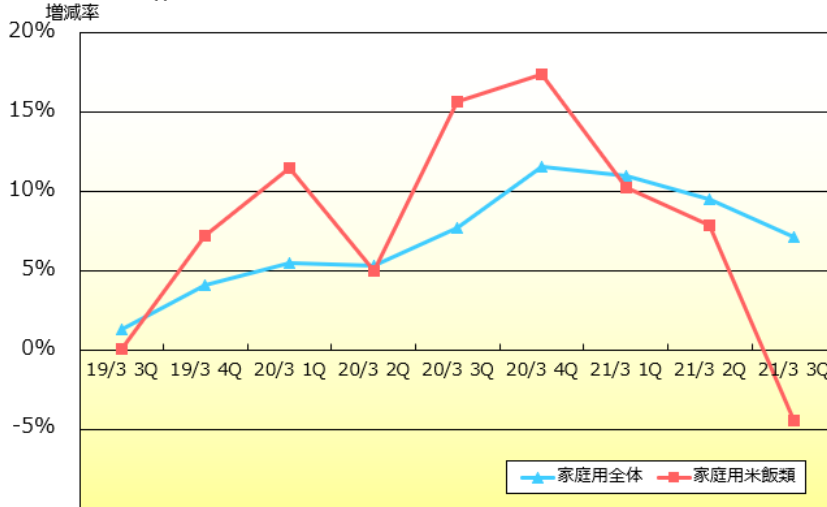
参考資料

営業外収支・特別損益の変動要因

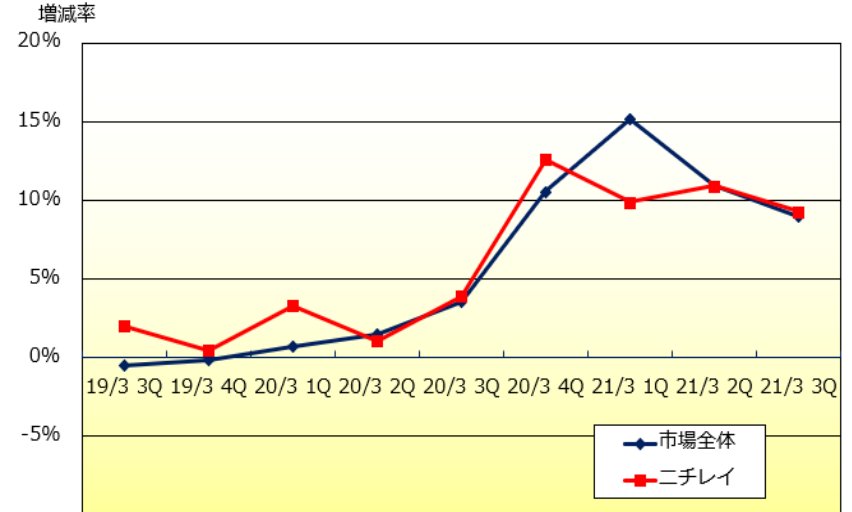
単位：億円（未満切り捨て）

プラス表示は利益を示す	第3四半期累計			通 期		
	19/12	20/12	増減	20/3	21/3E	増減
【営業外収支】	6	5	△ 1	7	2	△ 5
（主要項目）						
金融収支	1	1	0	1	0	△ 0
持分法による投資損益	3	3	0	3	2	△ 1
【特別損益】	△ 7	△ 18	△ 11	△ 19	△ 17	2
（主要項目）						
固定資産売却益	0	0	△ 0	0	0	△ 0
投資有価証券売却益	4	0	△ 3	4	0	△ 3
固定資産売却損・除却損	△ 9	△ 7	2	△ 16	△ 10	5
減損損失	△ 0	△ 11	△ 10	△ 4	△ 11	△ 6

当社の家庭用調理冷蔵の売上高前年同四半期比の推移

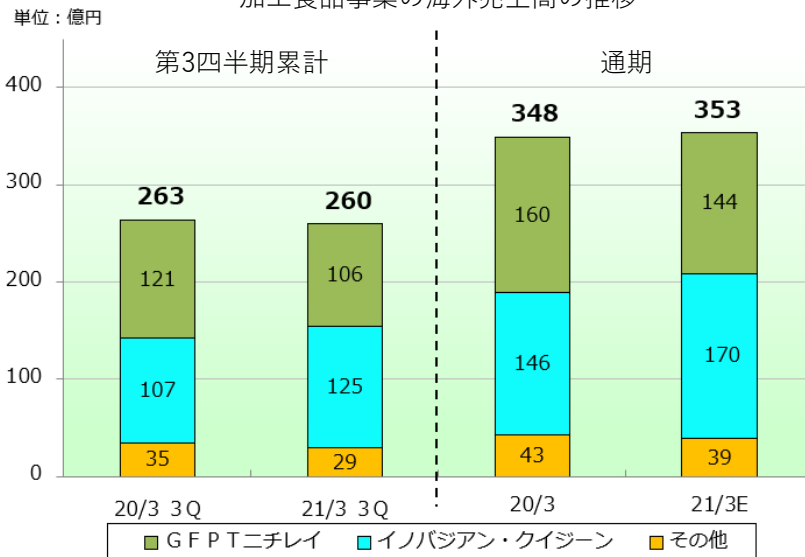


SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移



出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入レート=生協店舗を含む）

加工食品事業の海外売上高の推移



注：GFPTニチレイの売上高は欧州向けとタイ国内・アジア向けの合計

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。